

# Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス  
東京都港区東新橋1-9-1

## 為替週間展望 = ドル円は年末年始を控えてもみ合いで推移か

[12月25日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月18日～12月22日		
始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	142.20	144.96(19)	141.87(22)	142.28 +0.13
ユーロ・ドル	1.0905	1.1013(21)	1.0892(18)	1.0997 +0.0102

=====

国内株・金利/米国株・金利			
終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	33,169.05 +198.50	日本10年債利回り	0.631 -0.065
ダウ平均株価	37,404.35 +99.19	米10年債利回り	3.888 -0.023

=====

<来週の主要経済統計等>

- 25日 日本10月景気動向指数改定値
  - ◆クリスマスのため、米国、欧州、香港市場などが休場
- 26日 日本11月雇用統計、日本11月有効求人倍率
  - 米10月住宅価格指数
  - 米10月S & Pケースシラー住宅価格指数
- 27日 米MBA住宅ローン申請件数
- 28日 日本11月小売業販売額
  - 日本11月鉱工業生産指数速報値
  - 米新規失業保険申請件数
- 29日 スイス12月KOF先行指数
  - 米12月シカゴ購買部協会景気指数

【前回のレビュー】今後の米経済指標は上振れするとドルを下支えする要因となりそうだが、一方で、下振れした場合は利下げ期待から上振れした時よりも反応が大きくなって、ドル売りに振れやすい展開となろう。こうした中、ドル円は一時的に戻りを見せても、基本は下向きの流れとなり、ドル売り円買いに傾きやすい展開になるとした。

【日銀金融政策決定会合では金融政策に変更なし】

日銀の植田総裁は7日の参院財政金融委員会での答弁で「チャレンジングな状況が続いているが、年末から来年にかけて一段とチャレンジングな状況となる」などと述べた。こうした答弁がマイナス金利解除など金融政策の正常化観測につながった。その後、11日に日銀関係者から「今月はマイナス金利解除を急ぐ必要はほとんどないと認識している」と金融政策の変更を否定する発言が出ていた。

19日に日銀金融政策決定会合の結果発表があり、金融政策には変更はなかった。大規模緩和策が維持され、フォワードガイダンス（将来の金融政策指針）にも変更がなかった。マイナス金利の解除など金融政策正常化への期待感が高まっていた市場は肩透かしを食った格好となった。

金融政策の現状維持の発表でドル円は142円台半ばから143円台後半まで急伸した。その後、植田総裁の記者会見を受けて、145円のすぐ手前までドル買い円売りが進んだ。チャレンジング発言に関しては、「今後の仕事の取り組み一般について問われたので、2年目にかかるところなので一段と気を引き締めてというつもりで発言した」と述べ、金融正常化を意図したものではないと説明した。

米国では12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）を受けて、来年の利下げ期待が

広がり、米国株はN Yダウが史上最高値を更新するなど、上昇基調で推移してきた。利下げ期待は米長期金利の低下につながり、ドルには圧迫要因となっている。

日銀金融政策決定会合での金融緩和策の維持は円売り材料となるものの、145円に乗せることはできず、その後は上値を抑えられている。日銀会合後の円売りの動きも19日中で一服となり、ドル円だけでなくクロス円も20日以降は伸び悩みを見せている。

日本では前年比で2%を超える物価上昇が続いており、マイナス金利の解除など金融政策の変更の時期は、春闘の結果などを踏まえて4月とみる向きが多いようだ。今回の日銀会合で大規模緩和策は維持されたものの、来年春ころまでには金融正常化へ向けて動き出すとの観測が根強く、円売りも長続きしないようだ。一方で、米連邦準備制度理事会（FRB）の来年の利下げ期待はドル売りにつながりやすい。

今年の最終週は、12月25日にはクリスマス休暇となることや年末年始を控えてドル円は大きな動きは見込みにくい。また、日本、米国、ユーロ圏、英国で中央銀行の金融政策会合が終了しており、年内は大きなイベントも重要な経済指標の発表もない。こうした中、ドル円は上値が重いながらも最近のレンジ内でのみみ合いにとどまりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、140.00～144.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、25日に日本10月景気動向指数改定値、26日に日本11月雇用統計、日本11月有効求人倍率、米10月住宅価格指数、米10月S & Pケースシャー住宅価格指数、28日に日本11月小売業販売額、日本11月鉱工業生産指数速報値、米新規失業保険申請件数、29日に米12月シカゴ購買部協会景気指数などがある。

#### 【ユーロドルは高値圏でのレンジ相場か】

12月25日がクリスマス、26日はボクシングデーで欧州市場は休場となる。年内はほとんど経済指標の発表もなく、休暇ムードとなりそうだ。ユーロドルは1.09～1.10台前半での推移を見せている。休暇モードで積極的に上値を追う動きも乏しいとみられる。

ドイツに目を向けると、12月のI F O景況感指数は前回や予想を下回った。11月の独生産者物価指数は市場予想からマイナス幅が拡大している。欧州中央銀行（ECB）による利下げ期待は高まりつつあるものの、利下げ期待をけん制する発言も出ている。ECBのデギンドス副総裁は21日に「利下げを語るには時期尚早」と述べている。休暇ムードで活発な商いに乏しく、ユーロドルは高値圏でのレンジ相場で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0850～1.1100ドル。

12月20日に発表された11月の英消費者物価指数は前年比+3.9%となり、前回の+4.6%から大きく低下した。コア前年比は+5.1%となり、こちらも前回の+5.7%から伸びが大きく鈍化している。この結果を受けて、市場では3月にも英中銀は利下げに動くとの観測も台頭しており、ポンドドルの上値を抑えている。

ただ、英中銀のペイリー総裁は、これまでに「利下げを予想するのは早すぎる」と繰り返しており、利下げ期待をけん制している。ドルの上値の重さもあって、ポンドドルはみみ合いで推移している。クリスマスや年末年始を控えていることもあり、ポンドドルはレンジ相場になるとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2550～1.2800ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、29日にスイス12月K O F先行指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。